

上越市自主防災組織 風水害対応マニュアル

～地域の防災リーダーとして～



『家族と地域を守る』には住民みんなの力が必要です!!
日頃から災害への備えをしておきましょう。

避難所・避難場所

避難のタイミング

避難経路上の注意点など

※ハザードマップを使い、避難所や避難経路を確認し、避難のタイミングと合わせて記入しましょう。

上越市防災委員会

連絡先メモ一覧

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
緊急連絡先			
市役所	025-526-5111	町内会長	
区事務所		副町内会長	
火事・救急	119	役員	
警察	110	役員	
ガス水道		防災士	
電力会社		民生委員	
電話会社			
かかりつけ医			

感染症対策

災害時に大勢の人が避難所・避難場所に行くことによって、感染症の感染リスクが高まることが心配されます。避難する際は、次の4つのポイントを心掛けてください。

ポイント①
自宅での避難(2階以上で崖から離れた安全な場所)や親戚・知人宅への避難など、避難所以外への分散避難も検討しましょう。

ポイント②
体温計やマスク、アルコール消毒液などの衛生用品を持って避難しましょう。

ポイント③
避難先では、こまめな手洗い、定期的な換気などを徹底しましょう。

ポイント④
日頃から検温などで体調を確認しておきましょう。避難先で体調が悪くなったときは、すぐに周囲(避難所の場合は職員)に伝えましょう。

《保存版》上越市自主防災組織風水害対応マニュアル

発行／上越市防災委員会

事務局：上越市防災危機管理部 市民安全課 電話 025-526-5111

平時

- 各家庭で防災対策を講じる
- 定期的に家族で防災について話し合う
- 自主防災組織の役割分担、活動内容について理解する

- 防災知識の普及
 - 防災体制の整備
 - 避難行動要支援者の個別避難計画の作成
 - 防災訓練の実施
- ポイント①参照

3日前

- 自宅周辺の災害リスクを再確認
- 非常持ち出し品を準備・確認
- 気象情報や防災情報、避難情報を収集

2日前

- 車は使用せず、徒歩で避難する(山間部等一部地域を除く)
- 隣近所で声を掛け合って避難(高齢者世帯、要配慮者世帯も)
- 道路が冠水しているときは、マンホールや側溝に注意

1日前

警戒レベル3

避難に時間要する人とその支援者は避難
それ以外の人は避難準備

警戒レベル4

危険な場所から全員避難 → 避難完了

町内会・自治会等で連携して行うこと

自主防災組織の活動

- 地域の災害リスクを確認 → ポイント②参照
- 組織内の役割を確認 → ポイント③参照
- 資機材や備蓄品を確認 → ポイント③参照

- 情報を収集し、早めの避難 → ポイント④参照
- 住民へ避難の声掛け → ポイント⑤参照
- 要配慮者の支援 → ポイント⑤参照
- 住民の安否確認 → ポイント⑥参照
- 被害状況等を市へ報告 → ポイント⑥参照

注意!

- 河川の増水や風の吹き返しに注意 → ポイント⑦参照
- 災害後の安全点検

台風最接近

災害発生

警戒レベル5



命を守るために
最善の行動を
とりましょう

台風
通過

災害時に町内会長や役員が不在の場合、
どのように対応したらよいか

A 日頃から会長等が不在の場合に備え、防災訓練等で対応できるようにしましょう。不測の事態に対応するため、役職に副任を任命とともに他の班の活動内容も理解しておくことが大切です。

緊急の場合は、組織の人を集めて、
自主防災組織等で定めた防災計画や
市が作成した「防災の手引き」等を参考
に対応してください。



こんなときどうすればいい?

Q 気象情報や防災情報、避難情報はどうやって収集すればよいか

A 気象情報や防災情報、避難情報の収集方法は、次のようなものがあります。

- テレビ(上越ケーブルテレビジョン、NHKなど)
- ラジオ(コミュニティFM、NHKラジオ第一)
- インターネット(気象庁ホームページ、新潟県河川防災情報システム、新潟県土砂災害警戒情報システム、上越市ホームページなど)
- 新潟県防災ナビ(新潟県公式アプリ)
- 緊急一括放送(防災ラジオ*1、防災行政無線の個別受信機・屋外スピーカー)
- 上越市安全メール、上越市公式Twitter・Facebook・LINEなど
- 様々な方法を使って、自分に必要な情報を集めましょう。
- また、いざという時に活用できるようにしておきましょう。

*1…防災ラジオはFMが受けます。

Q 避難をする(避難を促す)タイミングはいつか

A 避難をする(避難を促す)タイミングは、地域の状況や家族構成、生活環境によって異なります。国・県・気象庁が発表する気象情報や防災情報、市が発令する避難情報を目安に、早めの避難を心掛けましょう。

また、地域によっては、町内会等で定めた防災計画に、避難のタイミングが示されている場合もありますので、併せて確認しておきましょう。

どのタイミングで避難をする(避難を促す)のかを事前に決めておき、このマニュアルの表紙に記入しましょう。

【気象情報や防災情報の例】

- ・大雨/洪水/暴風警報
- ・氾濫危険/警戒情報
- ・土砂災害警戒情報

【避難情報の例】

- ・高齢者等避難(警戒レベル3)
- ・避難指示(警戒レベル4)など

Q 防災関係機関(国・県・市・消防等)に連絡(出動要請・被害報告)したいが、電話が通じない。どうしたらよいか

A 大規模な災害が発生した場合、ライフラインが寸断され、電話が通じないことが想定されます。その場合、地元の消防団が持つ無線や屋外スピーカーを活用するか、近くの防災関係機関へ直接出向いて対応を協議しましょう。

